

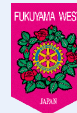
2022-23 年度
福山西ロータリークラブ

例会情報

第1526回(33)

会長 笹田 博之 幹事 内山 春夫

クラブ会長テーマ



「想像力を高めて変化に対応、社会に貢献」

日時	2023年4月25日(火) 12:30 ~
場所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点鐘・ソング「楽しい火曜日」 ゲスト・ビジターの紹介(出席報告参照) 「ロータリアンの行動規範」唱和 会長報告 幹事報告 出席報告 S A A 報告 スマイル報告 プログラム情報 その他報告
その他情報	メイクアップ情報(来週分) メイクアップ情報(再来週分) 今後の行事予定 クラブ活動報告



IMAGINE
ROTARY

【 会 長 報 告 】

プロ野球公式戦も始まり、早1ヶ月が過ぎようとしています。今年広島カーブの監督は新井新監督にかわり今期はAクラス復帰、さらには5年ぶりの優勝を期待するところです。それから私自身は別に阪神タイガースファンというわけではないのですが、二度目の監督復帰となった阪神岡田監督にも少しばかり期待するところです。実は岡田監督は大学では同じ学年でもあり、当時甲子園経験者含め1年生から4年生まで約150人が在籍している硬式野球部のなかにあって1年生ながらレギュラーに抜擢されていました。当時、野球部のグラウンドは本部キャンパスに隣接した場所にあっただけ学年たちも講義の合間などに仮設スタンドから練習風景を見たりしていました。私も時間つぶしでたまに見学していましたがある時フリーバッティングに立った小柄な選手がボールをピンポン玉でも打つようにレフト側に設置されたネット上部に豪快に打ち込むのを見てこんな選手がプロ野球にすすむんだろうなと思って見えていました。後でそれが岡田選手だと知りました。私が大学入学当時(1976年)、東京6大学野球はあの怪物江川が法政大学の3年生で活躍していたこともあり今よりもずっと人気がありました。とくに当時の法政大学は江川筆頭に甲子園のスター選手をずらりと揃えて黄金時代といわれていてリーグ4連覇をなしとげていました。私は高校のときテレビで見た江川の甲子園でのピッチング見たさに彼が先発した試合を見に神宮球場によく通いましたがスタンドからみた実際の生のピッチングには驚愕しました。大きな体でゆったりとしたバランスの取れたフォームと小さなテイクバックから放たれるボールはリリースされた瞬間にキャッチャーミットにスパーンと収まる感じで、また遠くからでもバッター手前でボールがホップするのがわかりました。これまで私自身、アマチュア野球やプロ野球選手のピッチャーのピッチングを幾度となくみていますがこんな球質のボールはこれまで見たことがありません。打者からみればど真ん中に見えるボールを実際に打ちにいくとボールはバットのはるか上を瞬時に通過する感じだと思います。当時から江川は得点圏にランナーがいる時、ここぞと言うとき以外は力を抜いたピッチングをして手抜きと言われていましたが全力で投げた伸びのあるストレートボールはほんとうにバットにかすりもしませんでした。ある年に法政大学と優勝のかかった試合で江川が先発したとき、得点圏にランナーがいてノーアウトでクリーンナップをむかえたとき岡田、山倉(巨人ドラフト1位)をふくめた3.4.5番相手にいずれも豪速球で3球三振、1球もバットにかすらせず僅か9球のスリーアウトで終わらせたピッチングはいまでも鮮明に私の記憶に残っています。

さて話は岡田監督に戻るのですが彼はドラフト1位で阪神に入団後、1985年にはバース、掛布、岡田のクリーンナップが3者連続でバックスクリーンへホームランを放った(伝説の三連発)の快拳をなしとげその年は21年ぶりの優勝をなしとげたわけですが、ちょうど阪神優勝のニュースは私の新婚旅行の帰国便の機内で配られた新聞で知ったことはことは印象深く記憶に残っています。いずれにしても今シーズンのプロ野球は始まったばかりです。私の個人的な見解、希望としては優勝は広島カーブ、そして2位は阪神タイガース、その他のチームはファンの方には申し訳ないのでありますがそこそこだんごレースで良いかと思っております。

【プログラム情報】

《 地区研修・協議会報告 》

【会長・幹事部門・・・瀬尾 義裕】

1 開催概要

日 時：令和5年4月23日（日）

場 所：広島国際会議場

時 間：午後1時～午後6時30分

2 2023-24 国際ロータリー 会長テーマ

既にご報告のとおり

3 2023-24 第2710地区 地区運営方針

既にご報告のとおり

4 分科会＝会長幹事部門

RLIは1992年に考案され、2008年に日本国内に導入されましたが、第2710地区は国内導入時にこれを実施した3地区の1つです。同研修は、①グループ形式②参加型を特徴としており、リーダーに求められる各資質の向上を目的としています。当日は、平素の研修に於いて講師を務めているDL（ディスカッションリーダー）が参加者役となり、檀上における「実演」が実施されました。実演テーマは「戦略会議」が採用され、戦略会議の要否にまで至る極めて熱い議論が交わされたので、実演であっても会場は多いに沸きました。

【クラブ管理運営部門・・・古井 正則】

先の4月23日、広島国際会議場にて開催されました「2023-24年度 地区研修・協議会」、クラブ管理運営部門の分科会に出席して参りましたので、以下の通り報告します。

分科会では、「クラブ運営の活性化策を探る」のテーマの下、カウンセラーの石川良興ガバナーの講演と、事前に各クラブ宛に実施された「クラブ運営に関するアンケート」の集計結果報告、という実質的な二部構成でプログラムが進められました。

「運営のあり方を再確認する」と題された石川ガバナーの講演では、まず各クラブの委員会構成について問題提起がなされました。第2710地区内のクラブとしては、歴史があり規模も大きいクラブになるほど「～部門」、「～委員会」、「～小委員会」等の細かい分類の構成となっている傾向にあり、会員数の少ないクラブでは委員会がある程度統廃合されている傾向にある、ということでした。石川ガバナーはここで、「みなさんの組織はどうあるべきか、何が良いかは、みなさん自身で考えなきゃいけないですよ」と述べられ、「時代に即したロータリーであるためには」という考えを推し進めるべきであり、変化を嫌う方々からの批判を怖れるべきではないと強調されておられました。古井個人としては、かなり同意できるお話が多く、分科会に参加した1時間半でこの辺りが一番勉強になりました。

石川ガバナーの講演は、その後、「活動計画書の電子化の検討を」、「委員会を開催した後で、懇親会を開いていますか?」、「クラブ活動方針が玉虫色で、毎年使いまわせるようなものになっていませんか?」、「My Rotary に登録し、eラーニングを利用して勉強してください」、「IM とガバナー公式訪問、入会3年以内の会員に出席義務を設けていますか?」、「RLI にはしっかり参加してください」、「例会出席は

親睦の第一歩」等々のお話が続きましたが、現在の西クラブの委員会構成から考えると「クラブ管理運営委員会」の管轄からは外れるお話が多かったように思います。

続いてのアンケート集計結果報告では、①クラブの会員数と平均年齢・平均在籍年数、②例会出席率とクラブ単位でのスマイル平均額等、③同好会と親睦会等、④近年入会者のクラブ定着に向けた取組み、の4項目を軸として、それぞれの項目について優秀な成績だった各クラブの方からその取組みの実態等について発表がありました。スマイルを増やすための対策や新入会員の定着に向けた取組み等については当西クラブですで行われていることがほとんどでしたし、他の内容についても先程と同様に、現在の西クラブの委員会構成から考えると「クラブ管理運営委員会」の管轄からは外れるお話が多かったように思います。なお、ちなみにですが、アンケートで新規加入会員数が多かった2クラブがその理由として話されていたのは、ともに現会長による一本釣りの結果、ということで、ほぼ特殊技能だという事でした。

今回「クラブ管理運営部門」の分科会に参加させていただいて改めて感じたことは、少なくとも当福山西ロータリークラブの現状の委員会構成を前提とするならば、「クラブ管理運営委員長」という役職は特に必要なく、クラブ会費に拠って運営される「会員増強委員会」、「ロータリー情報委員会」、「親睦委員会」、「広報委員会」、「例会委員会」が所属する「クラブ管理運営部門」が存在する、という組織構成がありさえすれば事足りるのではないかということでした。今回の分科会の内容がそうであったように、上記の委員会の枠を超えて「クラブ管理運営委員会」として単独で対応すべき事案はほぼないように思うからです。実際、毎年のクラブ管理運営委員長も、活動計画書のページを作成した後は、副会長としての役割を別にすれば、特に何もすることがない状況だったのではないのでしょうか。

古井は次年度、クラブ管理運営委員長を務めさせていただく見込となっておりますが、上記の理由等により、自分から何か主体的に動くことは特に考えておりません。「クラブ管理運営部門」に所属する各委員会が十分に機能しているのであれば、クラブ管理運営委員長が能動的に何かを為そうとするなら、それは既存の委員会に屋上屋を重ねることになり、むしろ弊害の方が多いのではと考えるからです。その反面、「クラブ管理運営委員長」にはクラブ運営を活性化させる役割があることは承知しておりますし、次期瀬尾会長からも各委員会の活動を支援するようご指示を受けておりますので、何かご要望をいただければ可能な範囲で積極的に対応させていただこうと考えております。必要な事項がありましたら何なりとお申し付けください。よろしくお願い致します。

【公共イメージ部門・・・石川 真吾】

※「広報委員会」は、「クラブ公共イメージ委員会」に名称が変わりつつあるそうです。

本題へ

「最近のロータリー会員減少の要因に、広報がきちんとされていない」というところから始まり、下記の取り組むべき課題のお話がありました。

- ・ 奉仕活動の内容向上をさせ認知度を高めることが必要。(地域社会のニーズに取り組む)
手法の一つとして、「若者・著名人などが一緒に奉仕活動できる内容を考える」
活動内容を若者(学生など)と一緒に考え意見を聴くことで参加もし易くなる。
報道機関へ積極的に情報提供し、伝え易い、取り上げてもらい易い環境をつくる。
※企画書の持参・手渡しをおこなう。

- ・クラブ公共イメージの計画を立てる。
目標を設定し、1年で終わる内容でなく、2年・3年と続ける必要もある。
- ・社会奉仕団体の活動は、「会員数」です。
活動内容に賛同いただき、仲間（会員）を増やす。そのことが、財源の確保にも繋がる。

※ホームページは、シンプル・見やすい内容で作成をすることが良い。
YouTubeの活用もおこない、SNSでの発信も頻繁におこなう。

- ・マイロータリーの利用促進

※「ロータリークラブセントラル」のホームページに色んなポイントがあるので、
役だててください。

など抜粋した内容報告ですが、もっと勉強するべきであると感じた時間でした。
できることから始めたいと考えます。

(追記として)

- ・個人のプライバシーが厳しくなるのお話がありました。
例えば、「タクシー運転手」の顔写真・名前などが義務として車に掲載されていますが、今後は義務ではなくなるようです。(国交省の取り決め)

※撮影した方々に、写真を掲載して良いかの確認が必要になるそうです。
特に、未成年などは注意が必要とのことでした。

【会員増強部門・・・黒木 成光】

先日、4月23日に広島国際会議場にて地区研修・協議会に参加をさせていただきました。私は、会員増強部門に参加をして、各クラブの委員長と懇談をさせていただきました。初めに、次年度の前田カウンセラーが各地区の現状内容を取りまとめて、これからの増強委員会のアイテムとして、この冊子を使って頂きたいと説明がありました。私的には、ここまでの説明を聞いている限り、打開策の内容は今までの内容と代り映えが無いのかなと、聞いておりました。次に、山口県では、残念なことに会員の減少で、クラブが廃止になる事が決定したところがあります。しかし反対に、広島県の庄原クラブでは、入会者が12人と増えて、純増員が11人も出来た事に、会場内で拍手が起こりました。庄原クラブはどうしても、地域的に人口減が激しく、その為に新会員が見込めない地域でした。しかし、それを覆すかの様な結果が出来た事に大変喜んでスピーチをされました。庄原クラブの委員長はこのままでは、クラブの廃止は間違いなく差し迫っている。会員間の危機感をとにかく数段上げて、各イベント行事など、会員みんなで参加をしていただき、新入会員の声掛けを地道にして参りました。最初は入会の対象となる方がおらず、大変でした。しかし、危機感をもってやれば結果的に新会員の増員につながりました。と結果が出てことに大変に喜ばれておりました。庄原クラブの増員の具体的な話は出ませんでした。が、何事にも継続する事だと思います。次に現在のロータリークラブの課題は女性会員が少なすぎる事です。未だに女性会員がゼロのクラブもあり、また、女性会員専用クラブを作ることはありません。各クラブの女性会員をとにかく増やす事を課題として頂きたいとの事です。日本のロータリークラブの女性会員は、会員数が全体に5%台と少なく、将来的にこれを10%台までに増やしたい計画です。福山西も最近では、菊池さんを入れると女性会員が5人ま

でに増える予定です。そうなれば、西クラブは14%台までに女性会員率が上がります。皆様もここ最近、感じておられる事と思います。笹田年度で女性会員が増えて、全体の平均年齢も下がって来ました。とても嬉しい事です。次年度はこの良い流れを引き継ぎ、いや今後にも引き継いで行ってもらいと考えております。皆様もその為には、なにとぞご理解とご協力をお願いしたいと思っております。次年度増強委員会メンバーは、とても素晴らしい方たちです。私たちの強いこの思いを必ずやっただけの嫌、成功すると信じて話したいと思っております。

【奉仕プロジェクト①部門 職業奉仕・・・尾熊 孝典】

● 分科会テーマ

2020年から新型コロナにより停滞していた各クラブの奉仕活動は、徐々に活発になってはいるものの、まだ十分とは言えない。

その状況をアンケートに取りまとめ配布すると同時に、3つのクラブから事例発表をして頂き、次年度の奉仕活動に積極的に取り組んで頂きたい。

また、戦争や大規模災害の影になり対応が遅れがちな環境問題に、地区一帯となって取り組みたい。

● 奉仕プロジェクト事例紹介

「日帰り子どもキャンプ」 松村 和幸（下関東）

「RCCについて」 岩城 淳（防府）

「イルミネーション事業」 佐々田 朋子（東広島）

事例紹介3つの話のすべてが社会奉仕に関する内容であった。

「日帰り子どもキャンプ」の事例紹介で、同行された施設の先生から、子どもたちに職業体験をさせて欲しいとの要望があったというのが、唯一職業奉仕に関することであった。

● 地区社会奉仕活動

「環境問題の出前授業について」 久保田 育造

● 職業奉仕に関するアンケート結果（全74クラブ）

➤ 発表出来ると回答したクラブが3クラブ（4.1%）しかなかった。

福山西RCも発表できないと回答

➤ 活動内容になし、活動しなかったと回答したクラブが26クラブ（35.1%）もあった。コロナ感染拡大の影響もあったと思うが、考えられない。

➤ 職場例会開催 23クラブ、「四つのテスト」の唱和 12クラブ、会員卓話 8クラブ、ゲスト卓話 5クラブ、職業奉仕に関する講話会 4クラブ、会員医療従事者による健康診断 4クラブ

【奉仕プロジェクト①部門 社会奉仕・・・竹中 雅彦】

多くのクラブが参加できる社会的なインパクトの大きい奉仕活動を企画する

社会奉仕委員会

① 地区補助金を用いた奉仕活動を企画する

② RCC（Rotary Community Corps）の紹介と支援を行う

③ これからの若い世代に対し、環境意識の啓蒙活動を実施する。

RCC（ロータリー地域社会共同体）

事例報告

- ① 下関東：「下関の子供達の未来を守ろう」をテーマに児童養護施設を対象に日帰り子供キャンプを実施。会員の年齢が高いため若いボランティアの補助が必要であった。子供たちは楽しく有意義な時間であったが課題としてボランティアが必要であったことと継続的な奉仕活動の必要性を感じた。子供たちは大人に対する不信感があり信頼関係を築くためには継続した奉仕活動が必要と感じた。
- ② 防府：RC と地域住民の方々の活動（里山の整備）を RCC として実施。
- ③ 東広島：会員全員で 11 月 25 日から 12 月 25 日まで地域の公園にイルミネーションを設置。2 年間活動を継続することで公園にたむろする青少年と交流が出来、そこでうどんを大人 500 円で販売、こども、青少年（大学生）には無料で配布して青少年と交流を深めた。会員全員で何か目的をもってやり遂げ達成感を味わえた。

地区の奉仕プロジェクト委員会としては環境意識の啓蒙活動を推進したい。

地域の学校に出前授業として行く準備はできているので地域の学校への呼びかけをしていただきたい。

【奉仕プロジェクト②部門 青少年奉仕・・・能登 伸一】

青少年奉仕委員会について、今年の研修も昨年と同様に取り上げられる内容としてはインターアクトクラブとローターアクトクラブの現状と課題についてでした。その中で、2680 地区の活発な活動をしているローターアクトクラブの現状報告がありました。「ビープロジェクト」と呼ばれる蜂を保護する活動や最近ではウクライナ支援も地区の役員としっかりコミュニケーションを取りながら行っているということでした。一方私たちの 2710 地区では板井代表が現状の問題点として会員数が増えない、資金が不足がちということをお我々ロータリー会員に訴えていました。

もう一つは来年 3 月 15 日から 17 日まで江田島青少年交流の家で開催される RYLA についてでした。ガバナー信条“平和の種をまこう！！”に呼応して 2 泊 3 日としっかり時間をとって若者が平和について考え、これからどんな行動をしていくかを考えます。キャンプファイヤーや楽しむアトラクションも企画されるそうです。

正直言って今年も私たち福山西ロータリークラブの青少年奉仕委員会の活動とはずいぶん中身が違う研修だったという印象です。

どなたか一緒にいきませんか、よろしく願いいたします。

【ロータリー財団部門・・・塩川 裕樹】

地区 R 財団委員会の藤中秀幸カウンセラーからロータリー財団の説明がありました。

次に佐藤委員（広島西南 RC）より地区の現況報告・ロータリーカードの説明がありました。

■基本方針（2023-24 年度）

ロータリー財団の使命に沿った地区補助金、7つの重点分野を支援するグローバル補助金など、補助金を立案実施するクラブをサポートし、クラブの活性化とロータリー団への理解を深める。

・各種寄付目標達成活動の展開

ポリオプラス	30ドル/1名以上（次年度より変更）
年次基金	150ドル/1名以上
ベネファクター（恒久基金）	1名以上/クラブ または 1,000ドル以上/クラブ

- ・補助金プロジェクトの体制の強化と円滑な推進

地区補助金・グローバル補助金の活用促進

■ 地区補助金活動報告

兼田悦子（福山東）さんから「地区補助金活動報告」がありました。まず福山東 RC の過去のグローバル補助を活用した奉仕事業の紹介がありました。

福山東 RC は国際奉仕事業が活発で必ず6つの考え方で活動しているとのこと。

現地調査・会員の全員参加・補助金の申請・他のクラブとの合同事業・現地で贈呈式・最後に例会で活動報告をするとのこと。また近年、コロナ禍で海外渡航が困難な為、今年度は地区補助金を活用し【車イス テニス大会】の支援を行い次年度も継続予定とのこと。松本（宇部西）委員から「財団奨学生について」という内容で過去の奨学生の活動報告の説明があり、元グローバル補助金奨学生報告を代理で報告されました。

最後に全員参加の地区補助金・グローバル補助金クイズが行われました。

ちなみに私は15/20問 正解でした。全問正解・18問以上正解者はゼロでした。

機会があれば例会プログラムで実施したいと思います。

【米山記念奨学会部門・・・宇田 信士】

第2710地区目標額 1人当たり 12,000 円です。

ご協力よろしくお願ひいたします。

【その他報告】

第1526回例会 BGM♪》

・高尾 英士さん 選曲

『舟木一夫♪高校三年生♪』